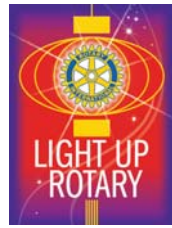




2014～15 年度
国際ロータリー会長

ゲイリー C. K. ホアン

Weekly Report Niigata



ロータリーに輝きを

2014～15 年度 国際ロータリーのテーマ



2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀樹

新潟 RC 12月第 2例会 (2014.12.9) No.3067

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 高橋 秀樹会長挨拶

さて、ロイターニュースによると、先週4日、アメリカ合衆国ワシントンのホワイトハウス前で「ナショナルクリスマスツリー」の点灯式が行われました。テレビのニュースなどでご覧になった方も多いかと思います。私はクリスチャンではありませんが、大変華やかで楽しげな映像に心が浮き立ちました。

しかし何事であれ物事には両面があります。毎年この時期にはクリスマスツリー用に大量の若木が伐採され流通します。もともとそのための商品作物として栽培されているものが出荷されているものが多いようではありますが、世界的に森林資源の枯渇が心配されている状況であることを思うと、複雑な心境にならざるをえません。端的な例としては、アマゾンの熱帯雨林が凄まじいスピードで減少し、土地利用の変化のために二酸化炭素排出量が増大して世界的な問題になっていることは皆さんもご存じの通りです。

いわゆる発展途上国が、自国の発展のために森林資源を乱伐し、その結果、地球全体として貴重な資源を危機的状況に追い込んでいくことは、一方的に非難できることではありません。なぜなら、いわゆる欧米の先進諸国も、千数百年前から数百年前にかけてそれぞれ自国の森林資源を使い尽くし、森林を草原、畑、荒地、都市に変えてしまい、結局はそのツケをアジアやアフリカの資源を奪うことへとすり替えてしまった、という歴史があるからです。伝統的な社会から、近代文明によって健康と文化的生活が保障される社会へと変わっていくときには、莫大なエネルギー確保のため、また建築や日常品の資材のため、そして運搬機材や船の建造のため、身近にある森林資源を後先を考えずに消費していくことは、どの国も通って来た道でした。現代の発展途上国では、その方法が他国に売却して外貨を得ることへと変わったにすぎません。

しかしここに、豊かな森林資源を抱えながら先進国へと駆け上がった例外的な事例があり、専門家の間で「奇跡の列島」、「緑の列島」と呼ばれている国があります。即ち、我が国日本であり、国土のほぼ70%が森林であるという、先進国としては稀有な状況にあります。欧米の専門家が日本を訪れると、「日本に資源がないというのは嘘だ、こんなに森があるじゃないか」と驚くそうです。

しかし、もともと日本の国土は、森林資源を維持する上で恵まれたものではありません。山地が約80%を占め、それを覆う

土壌は薄く崩れやすい脆いもので、地滑りなどがよく起こります。それが地震や火山などの地殻変動に絶えず揺さぶられます。さらに、台風や梅雨の不規則な豪雨で土が流されますが、加えて、突発的な雪解け水による被害もあります。他方、陸地面積あたりの人口密度は、古代・中世から現代に至るまで、世界的にも飛びぬけて高かったため、大地の力をいつ使い果たしてもおかしくない状況でした。ひょっとしたら日本は「浸食の進んだ荒地にへばりついて辛うじて命をつなぐ貧しい農民社会」になっていたかもしれないのです。

実際に、森林が壊滅的な状況に近づいたことが過去に三回ありました。最初は、飛鳥時代から平安時代の前半までの時期で、西暦でいうと600年から850年くらいまででした。朝廷が大規模な建築事業を連発したからですが、これにより近畿地方の天然の森林資源は壊滅してしまいます。しかし、これは一地方に限られたことでした。平安時代の後半から、朝廷の力が陰り始め、権力が各地に分散していったため、森林資源の消費も地方に分散し、集中的に根こそぎ使い尽くすことは無くなりました。

第二の危機は戦国時代の末期でした。秀吉や家康などの強力な中央政権が出現すると、森林資源は全国規模のネットワークを通じて大量に消費されていくようになります。1570年から1670年頃にかけて、日本の生態系は深刻な打撃を受け、荒廃しかけていました。ここで海外に植民地を獲得していれば、本国の資源を使い果たした後に植民地の資源を荒らすようになったかもしれません。しかし、日本は国内の資源でどうにかやりくりせざるをえませんでした。そのため、幕府やそれぞれの藩の役人たちは、徹底した森林管理を上から進めていき、他方、村人たちは自主的な規制によって下から森林管理を行っていきました。地形的に利用可能な山林については、木の本数、樹齢、太さ、質の良し悪しなど、恐ろしく緻密な記録が作成され、山林の不正な利用には厳罰が科せられました。同時に各地で大々的な植林活動が行われ、これにより江戸時代に持続的な林業が実現し、危機が回避されたのです。これは世界的にも稀有なことでした。

第三の危機は太平洋戦争とその後の復興期でした。日本が敗戦後奇跡的な立ち直りを実現したことの陰には、国土の自然資源を猛スピードで消費していった事実がありました。1950年代は危機的状況にありましたが、再び大規模な植林活動によって盛り返し、森林資源を回復させたのです。

かくして、先進国の中で日本は異例の森林率を誇るほどの状

況に至りました。日本の森の多くは原始の姿を留めていません。専門家の言うところによれば、「今日の森林景観は、良くも悪くも、日本人のつくり出したものであり、一種の文化遺産」なのです。最初に申しましたように、現在、地球希望で森林資源の枯渇が危惧されている中、我が国の状況は実に恵まれているわけではありますが、それは先人の努力の賜物なのです。

しかし今、日本の森林は第四の危機に直面しており、しかもこれは今までに経験したことのない新たな危機であります。高度経済成長により人件費が高くなったので、外国産の安い木材を輸入する方が安上がりになりました。その結果、林業は割に合わない産業になったので、産業従事者が少子高齢化して衰えていき、山林が世話されずに放置されるようになっていきます。今も日本の森林面積は増え続けていますが、間伐がされないため細い木が密生した不健康な森林になっています。

このことが与える悪影響は、国内外に及んでいます。野生動物が人里に現れ被害をもたらすようになりました。不健康な森林は保水力にも問題が生じ、各種被害につながります。衰退した林業を狙って外国資本が日本の山林を買収しておりますが、これを阻止する法整備が間に合いません。さらに輸入材への依存により日本は外国の森林を破壊して自国の森林を温存する状況となっているので、日本は「エコロジカル・テロリスト」と国際的な非難を浴びています。つまり、我々が今直面している問題は使い過ぎることによる問題ではなく、放置していることによる問題なのです。ボランティアの活動も見られるものの、やはり全体としては産業としての林業の活性化が必須です。経済的な好循環を生み出して、その中で森林の世話や保護を行っていかなくてはなりません。現状では至難の業と言わざるを得ません。政府はかねてより「森林・林業再生プラン」を推進しているところですが、平成24年7月20日には「日本の森林非常事態宣言」が決議されるに至りました。

本クラブの過去の卓話においても、バイオマス利用事業の開発などが紹介されたことがありました。また、神社仏閣の修復事業のために国産の素晴らしい木材が活用されているお話もありました。お仕事を通して産業を活性化し、それが我が国が世界に誇る財産を守ることにもつながるのであれば、それこそまさにロータリーの理念である職業奉仕と社会奉仕そして地域産業の活性化が合わさった理想的な姿ではないでしょうか。おそらく本クラブには、いろいろな形で森林活性化につながっていく事業に関係している方がおられると思います。よろしければ卓話などで、今行っておられることや、今後行う計画であることを、ぜひ教えて頂けないでしょうか。人間もまた自然の一部である以上、自然の恵みを利用せずには生きていくことはできません。であるならば、それを使わせてもらうだけ、それを援けていくことも忘れてはならないはずです。先人の努力の賜物である日本の森林が、今後も美しく健やかに保たれ、日本が世界に誇る資源であり続けることを切に願います。本日の会長挨拶は以上です。

(3) 委員会報告

・小飯田社会奉仕委員長より

1 毎年恒例で皆様をお願いしております、NHK歳末助け合い募金にご協力いただきたく、これから事務局がまわりますので、よろしくお願い致します。

2 12月5日に地区社会奉仕委員会が開催され、当クラブで実施した早朝清掃、交通遺児の為の事業報告をして参りました。

3 12月24日 ロータリー保育園へ9名で参る予定です。参加可能な方は事務局へお願い致します。

・小田職業奉仕委員長より職場訪問報告(次ページに記載)

・遠藤国際奉仕委員長より

2015年RI国際大会は、6月6日からブラジルのサンパウロにて開催されます。新潟クラブからも何名かの皆様から行きたいとお話をいただいておりますが、「参加したい、行ってみたい」と考えている方は、早めにわたくし若しくは事務局までお知らせください。なお参加コースにつきましては、地区大会で配布された地区オフィシャルコースにするか、新潟クラブのオリジナルコースで行くのかは現在手配状況を確認しながらご相談させていただいております。また参考までに世界大会の登録料は、12月15日まで\$325、12月16以降は\$375となり、\$50高くなります。\$1=120円を超えましたので早めの手続きがお得となります。

(4) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

徳永 昭輝君

米山奨学会寄付発表(徳永 昭輝委員長)

後藤 司郎君 樋熊 紀雄君

徳山 啓聖君

青少年育成基金寄付発表(小林 敬直副委員長)

本間 彊君 樋熊 紀雄君

(5) 若槻良宏さんへご長女の誕生御祝い贈呈

(6) 小林 敬直さんへ、マルチプル・ポールハリスフェローピンと米山功労者第3回マルチプル感謝状贈呈

(7) 幹事報告(安藤 栄寿幹事)

・NHK 歳末助け合い募金58,781円の御協力を頂きました。高橋会長より、NHK 坂本局長へ託しますのでよろしくお願い致します。

(8) NHK 坂本務局長より謝辞

(9) 卓話「雪は何色？」

公益財団法人 雪だるま財団

チーフスノーマン 伊藤親臣 氏

2014～15年度
新潟ロータリークラブ職場訪問 報告

職業奉仕委員会 委員長 小田 等



公益財団法人 雪だるま財団
チーフスノーマン 伊藤親臣 氏



11月18日例会終了後、職業奉仕委員会の年間行事の職場訪問を実施いたしました。

この度は新潟市が今年の6月に開園した「アグリパーク」と同じく今年の6月にグランドオープンした「いくとぴあ食花」を訪ね、これらの施設を見学しながら、この中の4つの施設の指定管理者である「にいがた未来共同事業体」さんの職場訪問をさせていただきました。参加者はロータリアン12名、事務局1名の総勢13名でした。

この日は、私どものために「にいがた未来共同事業体」の事業統括支配人さんから大変お忙しい中、施設のご案内をしていただくとともに、施設の説明と指定管理者として活動されている内容について説明していただきました。

特に、これらの施設をとおして指定管理者としての社会貢献への取り組みや各事業との連携、稼働率の問題や地域雇用や産業への配慮などといったことについて詳しいご説明をいただきました。お蔭様で、たいへん有意義な職場訪問となりました。

これらの施設は、新潟市が誇る食と花を広く知ってもらう施設として、また、新潟市が農業・雇用分野で国家戦略特区に指定されたこともあり、国家戦略特区新潟を県内外へ広くアピールする施設であります。これから「にいがた未来共同事業体」のお力でこの施設の役割がおおいに発揮されることを期待したいと思います。

「にいがた未来共同事業体」の事業統括支配人さん、参加頂いたロータリアンの皆さんありがとうございました。

(写真はホームページの活動報告に記載いたしました。)

本日の出席率 75.00 %

(2週間前メーク後 80.86 %)

12月16日の例会予定

卓話「忍び寄る危機―血液が足りない」

新潟県赤十字血液センター 所長 布施 一郎氏

新潟ロータリークラブホームページアドレス
<http://www.niigatarc.jp/>